

学習目的: マーガレット・S・マラーの発達論を通して、心の形成過程を理解し、精神看護に反映できるエビデンスを考える

精神看護学方法論Ⅰ(資料) 石東

学習目標: 1. 心の発達のポイントが述べられる

2. 心の発達のための関わりポイントが述べられる

マーガレット・S・マラー ウィーンで小児科と精神分析学を修めた。幼児の精神病の研究から、次第に正常児の精神発達に目をむけるようになり、母子の実験室観察にもとづいて、分離-個体化理論を提示した。

用語の定義: 自我境界=自我と外的現実との境界のこと。身体の場合は、それが皮膚である。

比喩=物事の説明に、これと類似したものを借りて表現すること。例え。
表象=観念=知覚したイメージを記憶に保ち、再び心のうちに現れた作用。イメージそのものを含めて呼ぶこともある。

参考文献

- MS. マラー著: 乳幼児の心理的誕生, りょう明書房, 1998年
- 前田重浩著: 臨床精神分析学, 誠信書房, 1998年

図3. 分離-個体化過程略図
(自我境界を明確にしていく過程)

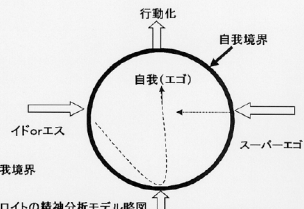
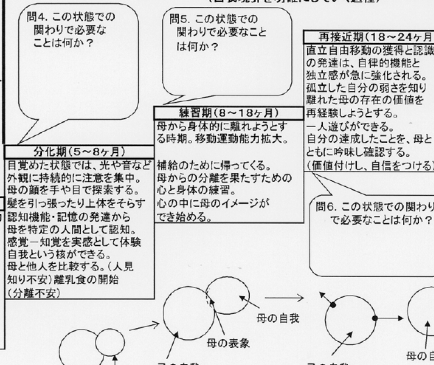
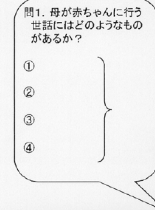
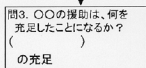
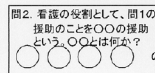
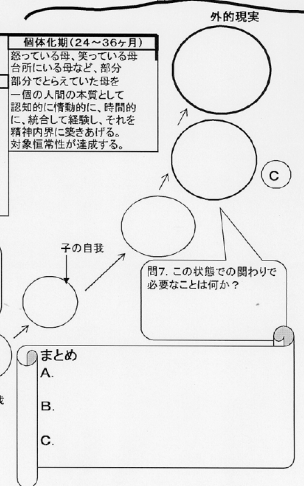


図1. フロイトの精神分析モデル略図



正常自閉期(出生数週間)
半睡醒-非覚醒状態
体内から体外に出て、刺激を避ける為、目を閉じ、耳を塞ぎ口を閉じ、身体を丸くする。
自閉(比喩)の状態
内的刺激(空嚔-排泄欲求)に圧倒され、泣き声や、激しい全身運動で不快感を表す。
無差別自覚。
胎外の環境で恒常的平衡状態を達成することである。



[図] 精神看護学の授業をもとにしたワークシート

認のために、計画にない板書をすることも多くなった。反転型授業や、ワークシートおよびシンクペア

支援がテーマである。そして、私のモットーは、目に見えないからといって、いきあたりばったりの看護は